

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月3日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270700505		
法人名	有限会社みやび会		
事業所名	グループホームいなほ		
所在地	長崎県平戸市生月町山田免1074番地1 (電話) 0950-53-3012		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	長崎県島原市高島2丁目7217番地島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年7月28日	評価確定日	平成19年8月6日

## 【情報提供票より】 (平成19年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月1日		
ユニット数	2ユニット		
職員数	16人	常勤 6人, 非常勤 10人,	常勤換算6.8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋建 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

### (4) 入居者の概要 (4月1日現在)

入居者人数	18名	男性 2名	女性 16名
要介護1	6名	要介護2	3名
要介護3	8名	要介護4	1名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84歳	最低 66歳	最高 97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	平戸市立生月病院・生月船員福祉会館診療所・舘浦歯科診療所
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平戸市生月町にある当ホームは、周囲を豊かな自然に囲まれた木造平屋建ての2ユニットのホームである。「できる力を奪わない・できない事は要求しない・うもれた力を引き出す」を運営理念として掲げ、職員にも浸透し、利用者の自由な行動を支援している。利用者の経験、希望、趣味や興味のあることを職員は把握されており、活動意欲を触発するよう促しがなされている。隣接して系列のデイサービスセンターがあり、デイの利用者と交流したり、地域のボランティアの方や保育園児、学生ボランティア等が訪問されるなど、地域の方とも交流を深めている。月に1回は避難訓練が行われており、地域の消防署や消防団、町内会にも協力を得ながら、万一の緊急時に備えている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果は改善計画書を作成して積極的に改善されている。試行錯誤しながらも記録類を改善してモニタリングからケアプランの立案、ケアの実践という一連の流れができており、改善につながっているのが窺える。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組んでいる。職員が個々で自己評価を行い、それらを代表が集約して自己評価票を作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヵ月に1回のペースで運営推進会議が開催されている。地域の民生委員や行政関係者、職員等の出席があり、積極的な意見交換ができています。運営推進会議の議題には、自己評価及び外部評価の情報公開やホームの運営・活動予定の報告、各運営推進委員からの質疑応答が行われ、報告書に記録を残している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の様子や状態変化など、家族へ確実に報告がなされている。金銭管理についても出納帳を作成して家族へ報告し、サインを得ている。現在のところ苦情はないが、家族の来訪時には声をかけ利用者の現状を伝えるとともに意見等を積極的に聞くようにしているのが窺える。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	手作りの弁当を持って近くの神社へ花見に行ったり、地域で行われる催しや行事等に参加したり、地域美容ボランティアの方に訪問して髪をカットしてもらうなど、交流する機会がある。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの運営理念として、「できる力を奪わない・できない事は要求しない・うもれた力を引き出す」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員に浸透しており、日々の介護の実践に活かされているのが窺える。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行われる催しや行事等に参加し、交流する機会がある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組んでいる。又、前回の外部評価結果は改善計画書を作成して積極的に改善されている。		

グループホーム いなほ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回のペースで運営推進会議が開催されている。地域の民生委員や行政関係者、職員等の出席があり、積極的な意見交換ができている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の実情を折に触れて伝えるなど行政担当者と連絡を密にしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子や状態変化など、家族へ確実に報告がなされている。金銭管理についても出納帳を作成して家族へ報告し、サインを得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在のところ苦情はないが、家族の来訪時には声をかけ利用者の現状を伝えるとともに意見等を積極的に聞くようにしているのが窺える。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、馴染みの職員が支援されており、利用者も落ち着いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は段階に応じて研修に参加している。研修内容は他の職員にも周知して共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や講演会など積極的に参加され、同業者で相互に訪問するなど取組まれている。代表者は意欲的に地域の同業者とネットワークを作ろうと取組まれているが現在のところ設立には至っていない。	○	意欲的に取組まれているのが窺える。今後も地域のネットワーク作りに更に尽力され、行政等にも協力を得ながら、地域の事業者同士が協働していけるよう今後の取り組みに期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が他の利用者や職員と馴染んでもらえるよう配慮し、家族にも関わってもらいながらスムーズに利用できるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から学ぶという姿勢で接し、食事の下準備や庭先の畑で野菜と一緒に作るなど、職員と利用者が共に暮らしながら支えあっているのが窺える。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常の様子やこれまでの生活暦等を把握し、その人らしく暮らせるよう本人の意向や思いを汲み取って支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別具体的な介護計画が作成されている。ユニット会議を開催して本人主体の介護計画となるよう立案し、家族にも意見を聞き同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は適切に見直しが行われている。又、その時々気づきや状態変化に伴い臨機応変に見直しが行われている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族が安心して暮らせるよう要望に応じて積極的に地域に出かけたり、外出・外泊するなど、柔軟に対応している。系列のデイサービスと交流する機会もある。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。又、地域の医療機関と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医の意見や家族の意向を確認し、入院入所の判断をしている。重度化や終末期のあり方については現在検討をされている。	○	重度化や終末期のあり方については現在検討中とのことなので、利用者や家族の意向、かかりつけ医、職員体制を考慮しながら、ホームとして重度化や終末期に向けた方針を統一し、今後に向けて共有していくことに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報保護やプライバシーについて理解されており、誇りやプライバシーに十分配慮しながら言葉かけが行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は本人のペースを尊重してさりげない見守りを行っている。本人の希望を汲み取りながらなるべく口をはさまずに支援している。		

グループホーム いなほ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下準備や食器拭き等、利用者も手伝っている。家族や地域からの差し入れや旬の食材等を用いて彩り、味付けの良い食事が提供されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の羞恥心・負担感にも配慮した入浴の支援を行っている。一日おきの入浴体制で、利用者の希望や状態等を考慮しながら支援されている。希望があれば毎日でも入浴は可能である。	○	ユニットで差異があると思われるが、時季等も考慮して健康維持活動の視点から、毎日の入浴、シャワー浴の更なる支援に期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員と共に作業を行ったり、本人の趣味や得意なことを支援したり、ドライブや行事に参加するなど、本人の生活暦を把握した支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出する機会を積極的に設けているのが窺える。近隣の畑やドライブ、催しへの参加等、戸外に出て気分転換されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、施錠することは無く、職員がさりげない見守り、声かけを行いながら日中施錠しなくてもよいよう工夫されている。		

グループホーム いなほ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に1回のペースで避難訓練を行っている。又、地域の消防団、消防署とも連携し、連絡網、避難経路、消防設備を整備している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時間を決めて水分補給を行ったり、栄養バランスに配慮した食事を提供するなど、摂取状況を記録し適切に支援されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は採光がよく、広い窓を持ち開放的である。利用者が作られた作品や地域の催しに参加した写真を飾るなど工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には広い窓があり、周辺環境も静かで、本人も落ち着いて居心地よく過ごせているのが窺える。利用者によって居室の雰囲気には差異があるもののホームから家族へ積極的になじみの物の持ち込みを促している。		

※  は、重点項目。